



講演会・総会を終えて

心地よい風や初夏の日差しを味わう間もなく、連日厳しい猛暑が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。6月23日は心配していた雨も止み、無事に講演会と、総会を開催することができましたのでご報告いたします。



講演会「がんところ」について

第60回目の講演会は、がん研有明病院 腫瘍精神科 部長の清水 研先生をお迎えし、「がんところ」～病気との向き合い方～についてご講演をいただきました。

清水先生は4000人以上のがん患者さんと対話をされた中で、患者、家族の怒り、悲しみ、喪失体験からどのように新たな世界観を見出して行けるのかを、いくつかの事例を通して語っていただきました。

患者や家族のこころを救うのは、感情に蓋をしない、悲しい時には悲しむこと、話をする事、更に自身の死生観を持つことは、豊かな心でより良く生きるために大切であることを学びました。

重々しい内容でさえも、清水先生の穏やかで、優しい語りは、聴く人にそれぞれの希望を与えてくださったと思います。

ご参加された方からも感謝のお言葉を頂き嬉しい限りです。

定期総会

第23回定期総会では、議事次第に沿って執り行いました。

発足当初から前年度まで会計を支えて下さった宇田 ひさ子さんに代わり、今年度から、当会の発起人、故市村 晴子さんのご長女、市村 康子さんに引き継がれました。

他の議案についても、会場とオンライン参加者、委任状の返信により、過半数の承認を賜りましたのでご報告申し上げます。

当日ご入会頂いた方、ご来場、オンラインでご参加された会員の皆様、そしてご都合が合わず、ご参加されなかった会員の皆様には総会の承認とともに、温かい励ましのお言葉を頂戴しましたこと、こころより感謝を申し上げます。

引き続き、当会の運営に関心、協力、ご援を賜りますようこころよりお願い申し上げます。

当会の運営に関われる方も随時募集しております。お気軽にお声掛けいただきますよう、役員一同お待ちしております。

講演会報告

「がんところ ～病気との向き合い方～」

宮田乃有



2024年6月23日(日)14:00～15:30 プラッツ第1会議室にて、がん研有明病院 腫瘍精神科 清水研 先生を講師にお招きし、上記講演会を開催しました。参加者は会場が51名+役員5名、Web参加者が7名でした。

清水先生のご講演は4つの項目にそって進められました。

こころの軌跡

まず1. がん体験後のこころの軌跡 として、20代の男性が「根治的な治療は難しい」と診断されるという喪失体験後の「こころ」の道筋についてお話しされています。

今までの価値観が崩壊したり生きる意味を喪失させたりするような衝撃的な出来事により、がん体験前の世界観が、つらい考えや感情がめぐる時期、病気になったことの意味を考える時期を経て、新たな世界観に至る過程をわかりやすく説明されていました。

家族の心理

次に、2. 家族の心理 として、愛着と予期悲嘆について、お子さんをごんて亡くした父親の心情と、夫ががんと診断された妻の事例紹介がありました。自分自身の苦悩(予期悲嘆)を抑えて、大切な人を精一杯ケアしようとする家族もいますが、病気の経過が良くならない場合には無力感を感じることもあります。家族は不安・抑うつ・不眠など患者本人と同等、あるいはそれ以上の精神的苦痛を有しているという調査もあり、第二の患者ともいえます。



対話、寄り添い

3. 対話すること、寄り添う ことでは、がん患者と看護師のやりとりを通して、共感とは何かについてお話がありました。他人の気持ちをわかるというのは現実的には不可能ですが、共感しようとする(理解しようとする)姿勢が大切だとおっしゃっていました。また、寄り添っているとはどういうことか、聴いてもらう側の視点からみた寄り添うことの意味についてポイントをあげられました。

死と向き合う

さいごに、4. 死と向き合う こととして、ご自身の経験を交え、死に対する現代人の向き合い方や、人が死を恐れる理由、死生観についてお話がありました。先生は「人生は1回限りの旅」という言葉が心に入ってきたそうです。

質疑応答では、がんの治療中だがどう過ごしたらよいか、腫瘍精神科はどここの病院ならあるか、緩和ケア病院に入院した友人にどう声をかけたらよいか、といった質問に丁寧に答えてくださいました。講演会では清水先生の著書として『がん患者のこころをささえる言葉』(KADOKAWA)が紹介されています。ぜひご一読いただければと思います。

2024年総会 新年度役員に会計担当として市村康子さんを迎える

去る2024年6月23日(日)に、府中がんケアを考える会第23回定期総会を府中プラッツで、府中市議会議員の西宮幸一様を含めて、多くの会員が参加し、盛大に開催されました。

開会

本総会の司会は当会役員の宮田乃有さんが務め、冒頭に会長の市原美幸さんより挨拶があり、会員の皆様に総会参加の御礼と当会の設立からの経緯の概略を述べ、今の社会にこの団体の果たす役割を語っていただきました。

次に、総会の議長には永年当会の役員を担っている副会長の窪田ふく子さんが選出され、議事の進行を行ないました。

議案提案

総会では、第1号議案から第7号議案までの7つの案件が提案されました。

第1号議案では、2023年度事業報告について、役員の宮田乃有さんから説明がありました。今年の総会で可決された8つの事業方針に則り

①緩和ケアホスピスを提供する機関の情報収集と提供、②講演会、学習会の開催、③がん患者と家族で語り合う集いの開催、④がん体験者と家族を対象にした療養相談の実施、⑤府中市のがん対策推進のための意見と提案、⑥広報活動(通信の発行とHP、広報府中等への行事記事の掲載)、⑦会の運営と役員、会員の拡大、⑧関連する団体との協同や活動協力について、項目ごとに報告がなされました。

続いて、第2号議案の2023年度会計報告の審議を行ないました。本来であれば会計担当の役員が宇田ひさ子さんから説明すべきところでしたが、都合で欠席だったため、市原会長から説明を行いました。

収入の前期繰越金と支出の予備費を含めて総額271,622円となりました。

併せて、第3号議案の2023年度監査報告も行われ、会計監査の稲津憲護から4月6日に行なわれた会計の収入と支出の監査の結果、レシートや領収証を照合し、提案された数字と相違ない事を確認し報告しました。

次に、第4号議案2024年度役員提案について、市原会長から提案説明がありました。変更点として会計担当を永年勤められた宇田ひさ子さんから、新役員として市村康子さんに引き継ぐことを提案しました。市村康子さんは、現在建築士として活躍されている方ですが、当会の設立と運営に尽力された市村晴子さんの娘さんでもあり、この度新たに会計担当役員として担っていただく事になり、総会にお諮りしたところ満場一致で承認されました。



次に、第5号議案の2024年度事業方針案と第6号議案の2024年度活動計画案について、役員の武智一雄さんから説明があり、前年度の事業を継続しながらも、より充実した事業の内容と会の運営となるよう、とくに広報ではX(旧ツイッター)や講演会のお知らせにPeatixを活用し、充実した周知に取り組むとの提案がありました。

最後に、第7号議案の2024年度予算案は、会計担当の新役員となった市村康子さんから説明があり、収入の前期繰越金と支出の予備費を含めて、総額228,582円の予算案を提案し、満場一致で可決されました。ご協力頂いた役員及び会員の皆様に感謝を申し上げます。

選出された府中がんケアを考える会 新年度役員

役職	氏名	住所
会長	市原 美幸	府中市紅葉丘
顧問	芝 祐信	都立荏原病院 院長
副会長	窪田 ふく子	府中市朝日町
役員	宮田 乃有	国分寺市東元町
	武智 一雄	府中市天神町
	岸本 まり	府中市幸町
会計	市村 康子	府中市紅葉丘
会計監査	稲津 憲護	府中市西原町

あんずまつりに参加

6月2日、今年も紅葉丘第2公園で開催された「あんずまつり」に参加しました。

天気が危ぶまれましたが、たくさん参加者がありました。会ではがん関連パンフレットの配布、簡単なクイズなどで立ち寄っていただき、多くの人とがんについて話すことができました。

終了直後雨が降り出しましたが、100名以上の方に来ていただき、無事終了することができました。



年会費のお願い

会費振込み用の用紙を同封しています。未納の方よろしくお願ひします。恐縮ですが、振込費用は会員様でご負担をお願ひします。

2024年の予定

予定変更、中止になる可能性があります。

日時	行事	会場
9月22日(日)午後1時半～3時半	患者会	ル・シーニュ6階第4会議室
11月17日(日)午後1時半～3時半	患者会	ル・シーニュ6階第4会議室
11月24日(日)午前10時～4時	府中協働まつり	ル・シーニュ6階
12月 8日(日)午後1時半～4時	講演会	ル・シーニュ6階第1会議室

編集後記

今号は遅くなりすみません。「がんはなぜできるのか」(講談社ブルーバックス) 国立がん研究センター編。やはりいい本でした。5月には10年ぶりにキャンプをしました。子供より孫の世代です。PFAS ようやく都でも調査のようです。発がん性も指摘され、無関心ではいられません。

発行 府中がんケアを考える会・会報編集部

連絡先 183-0053 府中市天神町3-7-47 武智 一雄
電話 090-7729-4429 Mail: ktakechi@fuchugancare.org